

iStorage HS (システムバージョン 6.2.0 以降) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS Ver6.2.0 以降とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1} (Version 1.8 Revision 7 以降) との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

^{*1}：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker			
			22	21	20	r19	r18	r17.5 SP1	r17.5	19.6	9.2	9.1	9.0
Windows	2022	x64	○*3	—	—	○	—						
	2019	x64	—	○*3	—	—	○						
	2016	x64	—	—	○*3	—	○	○	○	—	—	○	
	2012 R2	x64	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
Linux	RHEL 8.6	x64								○	—	—	—
	RHEL 7.9	x64								—	○	—	○
	RHEL 6.10	x64								—	—	—	—
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup	Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery		Commvault				
			12.1	19c	12c	11g	12	11.7	11				
Windows	2022	x64	—	○*2	—	—	—			—			
	2019	x64	—	○*2	—	—	—			—			
	2016	x64	—	—	○*2	—	○	—	—	○			
	2012 R2	x64	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—			
Linux	RHEL 8.6	x64	—	—	—	—	—	—	—	—			
	RHEL 7.9	x64	○*1	—	○*2	—	—	—	—	—			
	RHEL 6.10	x64	—	—	○*2	○*2	—	—	—	—			

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Veeam Backup & Replication				IBM Spectrum Protect	Activelmage Protector
			12	11A	10A	9.5	8.1	2022
Windows	2022	x64	○	—	—	—	○	○
	2019	x64	—	○	○	—	○	—
	2016	x64	—	—	—	○*4	○	—
	2012 R2	x64	—	—	—	—	○	—
Linux	RHEL 8.6	x64	—	—	—	—	○	○
	RHEL 7.9	x64	—	—	—	—	○	—
	RHEL 6.10	x64	—	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

- *1: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *2: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: Veeam Backup & Replication 9.5 では、合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

- 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
- バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
- OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
- Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

問合せ窓口

NEC ファーストコンタクトセンター ストレージ窓口

- ・ 社内

URL : <https://one.nec.com/info/istorage/contact>

- ・ 販売店様

URL : <https://www.pb.nec.co.jp/product/info/istorage/contact>

iStorage HS/iStorage HS Lite/iStorage HS Virtual Appliance/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.7.1 以降) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS Ver5.7.1 以降とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1}(Version 1.8 Revision 6 以降)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

^{*1}：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いいたします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker			
			22	21	20	r19	r18	r17.5 SP1	r17.5	19.6	9.2	9.1	9.0
Windows	2022	x64	○*3	—	—	○	—						
	2019	x64	—	○*3	—	—	○						
	2016	x64	—	—	○*3	—	○	○	○	—	—	○	
	2012 R2	x64	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
Linux	RHEL 8.6	x64								○	—	—	—
	RHEL 7.9	x64								—	○	—	○
	RHEL 6.10	x64								—	—	—	—
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup	Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery		Commvault				
			12.1	19c	12c	11g	12	11.7	11				
Windows	2022	x64	—	○*2	—	—	—			—			
	2019	x64	—	○*2	—	—	—			—			
	2016	x64	—	—	○*2	—	○	—		○			
	2012 R2	x64	—	—	○*2	○*2	—	○		—			
Linux	RHEL 8.6	x64	—	—	—	—	—	—		—			
	RHEL 7.9	x64	○*1	—	○*2	—	—	—		—			
	RHEL 6.10	x64	—	—	○*2	○*2	—	—		—			

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Veeam Backup & Replication				IBM Spectrum Protect	Activelmage Protector
			12	11A	10A	9.5	8.1	2022
Windows	2022	x64	○	—	—	—	○	○
	2019	x64	—	○	○	—	○	—
	2016	x64	—	—	—	○*4	○	—
	2012 R2	x64	—	—	—	—	○	—
Linux	RHEL 8.6	x64	—	—	—	—	○	○
	RHEL 7.9	x64	—	—	—	—	○	—
	RHEL 6.10	x64	—	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

- *1: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *2: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: Veeam Backup & Replication 9.5 では、合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

- 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
- バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
- OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
- Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS/iStorage HS Lite/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.7.0 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS Ver5.7 以降とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1}(Version 1.8 Revision 4 以降)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker			
			20	16	15	r19	r18	r17.5 SP1	r17.5	9.2	9.1	9.0	8.2
Windows	2022	x64	—	/	/	○	—	/	/	/	/	/	/
	2019	x64	—	/	/	—	○	/	/	/	/	/	/
	2016	x64	○*3	○*3	—	—	○	○	○	—	○	/	/
	2012 R2	x64	—	○*3	○	—	—	—	○	—	—	—	○
Linux	RHEL 7.9	x64	/	/	/	/	/	/	/	○	—	○	—
	RHEL 6.10	x64	/	/	/	/	/	/	/	—	—	—	○
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup	Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery		Commvault	Veeam Backup & Replication			
			12.1	19c	12c	11g	12	11.7	11	11A	10A	9.5	9
Windows	2022	x64	—	○*2	—	—	—	/	—	—	—	—	—
	2019	x64	—	○*2	—	—	—	/	—	○*5	○*5	—	—
	2016	x64	—	—	○*2	—	○	—	○	—	—	○*4	○*4
	2012 R2	x64	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—	—	—	○*4
Linux	RHEL 7.9	x64	○*1	—	○*2	—	—	—	—	—	—	—	—
	RHEL 6.10	x64	—	—	○*2	○*2	—	—	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “/”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

- *2: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: Veeam Backup & Replication 9.5 以前では、合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いため、
本機能の利用は推奨されません。
- *5: Veeam Backup & Replication 10A 以降で合成フルバックアップ機能を使用する場合、修正物件 P5.7.0-N001 以降の適用が必要です。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS/iStorage HS Lite/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.7.0 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS Ver5.7 以降とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1}(Version 1.8 Revision 3 以降)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker			
			20	16	15	r19	r18	r17.5 SP1	r17.5	9.2	9.1	9.0	8.2
Windows	2022	x64	—	/	/	○	—	/	/	/	/	/	/
	2019	x64	—	/	/	—	○	/	/	/	/	/	/
	2016	x64	○*3	○*3	—	—	○	○	○	—	○	/	/
	2012 R2	x64	—	○*3	○	—	—	—	○	—	—	—	○
Linux	RHEL 7.9	x64	/	/	/	/	/	/	/	○	—	○	—
	RHEL 6.10	x64	/	/	/	/	/	/	/	—	—	—	○
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup	Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery		Commvault	Veeam Backup & Replication			
			12.1	19c	12c	11g	12	11.7	11	11A	10A	9.5	9
Windows	2022	x64	—	○*2	—	—	—	/	—	—	—	—	—
	2019	x64	—	○*2	—	—	—	/	—	○*4	○*4	—	—
	2016	x64	—	—	○*2	—	○	—	○	—	—	○*4	○*4
	2012 R2	x64	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—	—	—	○*4
Linux	RHEL 7.9	x64	○*1	—	○*2	—	—	—	—	—	—	—	—
	RHEL 6.10	x64	—	—	○*2	○*2	—	—	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “/”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

- *2: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: 合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS/iStorage HS Lite/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.6.0 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS Ver5.6 以降とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1}(Version 1.8 Revision 2 以降)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker				
			20	16	15	r18	r17.5 SP1	r17.5	r17	9.2	9.1	9.0	8.2	
Windows	2019	x64	—	/	/	○	/	/	/	/	/	/	/	
	2016	x64	○*3	○*3	—	○	○	○	—	—	○	/	/	
	2012 R2	x64	—	○*3	○	—	—	○	○	—	—	—	○	
Linux	RHEL 7.6	x64	/	/	/	/	/	/	/	○	—	○	—	
	RHEL 6.9	x64	/	/	/	/	/	/	/	—	—	—	○	
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup			Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery	Comm vault	Veeam Backup & Replication			
			12.1	11.4	9.2	19c	12c	11g	12	11.7	11	10A	9.5	9
Windows	2019	x64	—	/	/	○*2	—	—	—	/	—	○*4	—	—
	2016	x64	—	—	—	—	○*2	—	○	—	○	—	○*4	○*4
	2012 R2	x64	—	—	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—	—	○*4
Linux	RHEL 7.6	x64	○*1	○*1	—	—	○*2	—	—	—	—	—	—	—
	RHEL 6.9	x64	—	—	○*1	—	○*2	○*2	—	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

- *2: 高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: 合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS(システムバージョン 5.5.1 以降) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS(システムバージョン 5.5.1 以降)とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.8 Revision 1)

との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いいたします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup				NetWorker			
			20	16	15	r18	r17.5 SP1	r17.5	r17	9.2	9.1	9.0	8.2
Windows	2019	x64	—	／	／	○	／	／	／	／	／	／	／
	2016	x64	○*3	○*3	—	○	○	○	—	—	○	／	／
	2012 R2	x64	—	○*3	○	—	—	○	○	—	—	—	○
Linux	RHEL 7.6	x64	／	／	／	／	／	／	／	○	—	○	—
	RHEL 6.9	x64	／	／	／	／	／	／	／	—	—	—	○
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup			Oracle RMAN			Acronis Backup & Recovery		Comm vault	Veeam Backup & Replication	
			12.1	11.4	9.2	19c	12c	11g	12	11.7	11	9.5	9
Windows	2019	x64	—	／	／	○*2	—	—	—	／	—	—	—
	2016	x64	—	—	—	—	○*2	—	○	—	○	○*4	○*4
	2012 R2	x64	—	—	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—	○*4
Linux	RHEL 7.6	x64	○*1	○*1	—	—	○*2	—	—	—	—	—	—
	RHEL 6.9	x64	—	—	○*1	—	○*2	○*2	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。

バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。

バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: 合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS/iStorage HS Lite/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.5.0 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS/iStorage HS Lite/NEC HCI Backup Option (システムバージョン 5.5.0 以降) とユニバーサル高速 I/O モジュール^{*1}(Version 1.6 Revision 1) との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec			Arcserve Backup			NetWorker			
			20	16	15	r17.5 SP1	r17.5	r17	9.2	9.1	9.0	8.2
Windows	2016	x64	○*3	○*3	—	○	○	—	—	○	—	—
	2012 R2	x64	—	○*3	○	—	○	○	—	—	—	○
Linux	RHEL 7.6	x64	—	—	—	—	—	—	○	—	○	—
	RHEL 6.9	x64	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
Operating System	OS Version	Hardware Platform	NetVault Backup			Oracle RMAN		Acronis Backup & Recovery		Comm vault	Veeam Backup & Replication	
			12.1	11.4	9.2	12c	11g	12	11.7	11	9.5	9
Windows	2016	x64	—	—	—	○*2	—	○	—	○	○*4	○*4
	2012 R2	x64	—	—	—	○*2	○*2	—	○	—	—	○*4
Linux	RHEL 7.6	x64	○*1	○*1	—	○*2	—	—	—	—	—	—
	RHEL 6.9	x64	—	—	○*1	○*2	○*2	—	—	—	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。

バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。

バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

- *3: VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、ユニバーサル高速 I/O 機能を使用してください。
高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。
- *4: 合成フルバックアップ機能は、iStorage HS の性能特性と相性が悪いいため、本機能の利用は推奨されません。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.2/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.2.0 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.2/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.2.0 以降)とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.5 Revision 3)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。

本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。

ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec		Arcserve Backup			NetWorker			NetVault Backup			Oracle RMAN		Acronis Backup & Recovery	
			16	15	r17.5 SP1	r17.5	r17	9.1	9.0	8.2	12.1	11.4	9.2	12c	11g	12	11.7
Windows	2016	x64	○*3	—	○	○	—	○	—	—	—	—	—	○*2	—	○	—
	2012 R2	x64	○*3	○	—	○	○	—	—	○	—	—	—	○*2	○*2	—	○
Linux	RHEL 7.6	x64	—	—	—	—	—	—	○	—	○*1	○*1	—	○*2	—	—	—
	RHEL 6.9	x64	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	○*1	○*2	○*2	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。

バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。

バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*3：VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、高速 I/O 機能を使用してください。

高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.1/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.1.1 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.1/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.1.1 以降)とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.5 Revision 2)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。

本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。

ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec		Arcserve Backup		NetWorker			NetVault Backup		Oracle RMAN		Acronis Backup & Recovery	
			16	15	r17.5	r17	9.1	9.0	8.2	11.4	9.2	12c	11g	12	11.7
Windows	2016	x64	○*3	—	○	—	○	—	—	—	—	○*2	—	○	—
	2012 R2	x64	—	○	○	○	—	—	○	—	—	○*2	○*2	—	○
Linux	RHEL 7	x64	—	—	—	—	—	○	—	○*1	—	○*2	—	—	—
	RHEL 6	x64	—	—	—	—	—	—	○	—	○*1	○*2	○*2	—	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。

バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。

バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*3：VADP 連携バックアップにより、VMware 仮想マシンをバックアップする場合は、高速 I/O 機能を使用してください。

高速重複排除機能使用時は、VADP 連携バックアップは未サポートです。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.0/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.0.5 以降)

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.0/iStorage HS Lite (システムバージョン 5.0.5 以降)とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.5 Revision 1)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。

未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用するために、バックアップサーバにインストールするソフトウェアです。

本ソフトウェアが更新された場合には、NEC サポートポータルに新しいバージョンが随時公開されます。

ユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能を使用する場合は、上記に記載のバージョンを NEC サポートポータルより入手してご使用いただくようお願いします。

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec	Arcserve Backup			NetWorker	NetVault Backup	Oracle RMAN		Acronis Backup & Recovery
			15	r17.5	r17	r16.5	8.1	9.2	12 c	11g	11.7
Windows	2012 R2	x64	○	○	○	○	—	—	○*3	○*3	○
Linux	RHEL 6	x64	／	／	／	／	○*1	○*2	○*3	○*3	—

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、保存するデータの重複排除率が低下する可能性があります。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。

バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*3：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。

バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.4) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.4 以降)とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.5 Revision 1)との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能をしようするために、バックアップサーバにインストールするソフトウェア

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec	Arcserve Backup		NetWorker	NetVault Backup	Oracle RMAN	
			15	r17	r16.5			12 c	11g
Windows	2012 R2	x64	○	○*4	○	—	—	○*3	○*3
Linux	RHEL 6	x64	／	／	／	○*1	○*2	○*3	○*3

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

- *1：高速重複排除機能使用時は、保存するデータの重複排除率が低下する可能性があります。
- *2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *3：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。
- *4：ARCserve Backup r17 を使用する場合、修正物件 P5.0.4-N002 を適用する必要があります。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.3) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.3) とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.4 Revision 1) との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能をしようするために、バックアップサーバにインストールするソフトウェア

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec	Arcserve Backup	NetWorker	NetVault Backup	Oracle RMAN	
			15	r16.5	8.1	9.2	12 c	11g
Windows	2012 R2	x64	○	○	—	—	—	○*3
Linux	RHEL 6	x64	／	／	○*1	○*2	○*3	○*3

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、保存するデータの重複排除率が低下する可能性があります。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*3：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.2) ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

iStorage HS V5.0(システムバージョン 5.0.2) とユニバーサル高速 I/O モジュール*1 (Version 1.3 Revision 1) との組み合わせでの、バックアップソフトウェアとの接続の検証状況を下表に示します。

「○」：検証済み」は、ユニバーサル高速 I/O を使用し、バックアップソフトウェアの基本的な機能を検証したことを意味します。未検証の組み合わせについてのご要望があれば、検証可否をご相談ください。

ただし、ご要望に添えない場合もありますので、検証済み構成での運用とすることをお勧めします。

*1：iStorage HS でユニバーサル高速 I/O 機能、ユニバーサル高速 I/O -高速重複排除機能をしようするために、バックアップサーバにインストールするソフトウェア

ユニバーサル高速 I/O 接続 検証情報

Operating System	OS Version	Hardware Platform	Backup Exec	Arcserve Backup	NetWorker	NetVault Backup	Oracle RMAN	
			15	r16.5	8.1	9.2	12 c	11g
Windows	2012 R2	x64	○	○	—	—	—	—
Linux	RHEL 6	x64	／	／	○*1	○*2	○*3	○*3

“○”：検証済み “—”：ご相談ください “／”：バックアップソフトウェアが未サポート

*1：高速重複排除機能使用時は、保存するデータの重複排除率が低下する可能性があります。

*2：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・デバイスを SmartDisk に設定してください。
バックアップ・デバイスが VTL の場合、高速重複排除機能は未サポートです。

*3：高速重複排除機能使用時は、バックアップ・タイプをバックアップ・セットに設定してください。
バックアップ・タイプがイメージ・コピーの場合、高速重複排除機能は未サポートです。

注意事項

1. 検証評価は、評価時点で最新の環境（下記）で実施しています。
 - 最新の OS を使用（最新 update／最新パッチを適用）
 - 最新のバックアップソフトウェアを使用（最新 update／最新パッチを適用）
2. バックアップ性能は、バックアップサーバとバックアップソフトウェアとの組み合わせによっても異なります。
性能要件が厳しい案件に関しては、事前にご相談ください。
3. OS／バックアップソフトウェア設定の手引きに、iStorage HS をご使用する際の推奨設定や手順が記載されています。
ご使用になる OS／バックアップソフトウェアに対応した設定の手引きをご参照ください。
4. Oracle RMAN 増分更新バックアップは、iStorage HS の性能特性との相性が悪く、性能が出にくい傾向があります。